様式第３号

事務事業評価表（平成２６年度）

事業コード	2030	課コード	0701	会計種別	一般会計	予算の種類	■政策　□経常　□なし

１．事業の概要(PLAN)

(1)事業概要	①事業名	基本事業		実施計画への位置づけ	○有　○無
		個別事業	あびバス景観マップの作成		
	②部課名	都市部・都市計画課			
	③事業主体	●市　○その他（　）		④対象地区	□我孫子　□天王台　□湖北　□新木　□布佐　■全市
	⑤事業期間	平成２５年度　～		⑥担当職員数	2 人　（換算人数　0.06 人）
	⑦事業費（人件費含む）	総事業費	770 千円	当該(開始)年度	（当　初）749 千円　（うち人件費　558 千円） （変更後）千円　（うち人件費　千円）
	⑧施策の位置づけ	施策コード	65001	重点プロジェクトへの位置づけ	重点なし
	基本計画地区別計画への位置づけ	○有　●無	部門別計画への位置づけ	（計画名）	景観形成基本計画
(2)目的	施策目的・展開方向	誇りと愛着を感じさせる魅力あるまち並みの保全・育成を図るため、市民と協働し、景観重要樹木の保全やハケの道の沿道緑化修景などを進めます。また、多くの市民が我孫子の魅力ある景観を知り、興味、関心を持つことが、より良い景観形成の向上につながることから、魅力的な景観ポイントや市民の優れた景観活動		事業目的	あびバスは民間路線バスが走らない地域のピークルであり、そこには隠れた景観資産が埋まっている。こうした景観資源を活かして市民の景観への理解と関心を高めるとともに、観光資源として活用することで、あびバスの利用促進と交流人口の拡大を図る。
(3)事業内容	内　容	我孫子市景観条例に基づき景観づくり市民団体に認定されている「我孫子の景観を育てる会」と共同で「あびバス景観散策マップ」を作成する。 平成２５年度は「船戸・台田ルート」の景観散策マップを作成し、平成２６年度に「栄・並木・泉ルート」と「新木ルート」を、平成２７年度に残りの「布施ルート」と「根戸ルート」を作成する。		当該年度執行計画	我孫子の景観を育てる会と共同で「栄・並木・泉ルート」、「新木ルート」の景観マップを作成する。 あびバス景観マップを市内各公共施設に配置する。 各種メディアを活用し、市内外に情報発信する。 仕様：Ａ３四つ折り、両面カラー印刷 部数：５，０００部／ルート
				当該年度活動結果指標	編集会議の回数　単位：回　想定値：6　実績値：

(4)達成目標(期待する成果)	達成目標(期待する成果)	指標種類	指　標	単位	(5)現況値	(6)目標値
当該(開始)年度	多くの人に景観への理解と関心を持っていただき、魅力あるまち並みを保全・育成する。	直接	事業の実施率（実施した事業内容／予定した事業内容）	%	50	100
３年後	多くの人に景観への理解と関心を持っていただき、魅力あるまち並みを保全・育成する。	直接	事業の実施率（実施した事業内容／予定した事業内容）	%	0	100
最終(概ね５年後)	多くの人に景観への理解と関心を持っていただき、魅力あるまち並みを保全・育成する。	直接	事業の実施率（実施した事業内容／予定した事業内容）	%	0	100

(7)事業実施上の課題と対応		代替案検討	○有　●無

(8)施行事項

	平成２５年度		平成２６年度			平成２７年度		平成２８年度	
	政策 内　容	金額(千円)	政策 内　容	金額(千円)	実績値(千円)	政策 内　容	金額(千円)	政策 内　容	金額(千円)
実施内容	＊「船戸・台田ルート」あびバス景観マップ印刷製本費（5,000部） 各種メディアへのＰＲ	111	＊あびバス景観散策マップ 「栄・並木・泉」ルート 「新木ルート」 景観マップ印刷製本費（各5,000部） 各種メディアへのＰＲ	191		あびバス景観散策マップ 「布施ルート」 「根戸ルート」 景観マップ印刷製本費（各5,000部） 各種メディアへのＰＲ	191	未定	
費　用									
予算(済)額	合　計	111	合　計	191		合　計	191	合　計	0
(9)財源内訳 国庫支出金	補助率 0 %	0	補助率 0 %	0		補助率 0 %	0	補助率 0 %	0
県支出金	補助率 0 %	0	補助率 0 %	0		補助率 0 %	0	補助率 0 %	0
起債	充当率 0 %	0	充当率 0 %	0		充当率 0 %	0	充当率 0 %	0
一般財源		111		191			191		0
その他の財源	□特会 □受益 □債務 □基金 □その他	0	□特会 □受益 □債務 □基金 □その他	0		□特会 □受益 □債務 □基金 □その他	0	□特会 □受益 □債務 □基金 □その他	0
(10)人件費等 換算人数(人)	0.06		0.06			0.06			0
正職員人件費	558		558			558			0
嘱託職員報酬額	0		0			0			0
臨時職員賃金額	0		0			0			0
事業費(予算(済)額＋正職員人件費)	669		749			749			0
(11)単位費用（事業費／活動結果指標）	167.25千円／回		124.83千円／回						

２．事業の評価(DO+CHECK)

評価項目	事　前　評　価	事　後　評　価（評価結果に応じ、改善案検討（拡充も含む））	改善検討
必要性 (1)事業が今必要である理由・背景は？(事業の必要性)	良好な景観づくりを推進していくためには、市民、事業者、市がそれぞれの役割を認識し、協働して取り組んでいくことが必要である。市民は、地域の景観づくりの主体であり、身近な景観資源を保全・活用する取り組みや市民や市民活動団体等が協働し、地区の特性に応じた景観を形成する等の活動が大切である。本事業は、こうした景観づくりの理念を踏まえ、市民団体と市が協働して景観づくりに取り組む事業であり事業の必要性は高いと考える。	○①事前確認での想定どおり ○②事前確認での想定どおりでなかった ＜想定どおりとした理由／想定どおりでなかった原因＞	○要 ○不要
必要性 (2)市が実施する必要性はあるか？(市実施の必要性)	○①民間企業、ＮＰＯ、市民団体等では実施できない （理由）□法令等で市が実施することが定められている □提供主体が市しかない □その他 ＜その他の内容＞ ●②自治体である市が推進すべきである （理由）□市が主導で進めることにより実効性が得られる □市が実施・提供することにより、良質で安定したサービスが保証される ■市が支援することにより政策・施策の目標の実現が図られる □その他 ＜その他の内容＞	□①民間企業、ＮＰＯ、市民団体等では実施できなかった □②市が主導で進めなければ実効性がなかった □③市が先導役となったことで市民へ普及が一層促進された □④市の支援が政策・施策の目標の実現に貢献した □⑤サービス水準が確保された □⑥サービスの安定供給基盤が確保された □⑦その他 ＜市実施の具体的な内容・必要性の理由＞ ＜その他の内容＞	○要 ○不要
参加・協働の工夫 市民の参加や市民との協働を工夫しているか？(体制づくり)	参加・協働の内容： ○①事業計画時に市民の参画有り ○②事業実施時に市民の参画有り ○③管理・運営に市民の参画有り ○④市民の自主的な活動と連携している ●⑤市民と共同で事業を実施 ○⑥その他 工夫の具体的な内容：我孫子の景観を育てる会と共同であびバス景観散策マップを作成する。 ＜その他の内容＞	実施した参加・協働の具体的な内容（又は今後、参加・協働が考えられる場合にはその内容） 参加・協働の程度・内容： ○①当初期待した以上 ○②当初期待したとおり ○③当初の期待以下 ＜期待した以上となった理由／期待以下であった原因＞	○要 ○不要
環境への配慮 環境に配慮して事業を進めているか？	配慮の視点： ■①自然環境を生かしている □②生き物と共存している □③手賀沼を意識している □④環境負荷低減に貢献している □⑤その他 取組む内容：景観形成の観点から自然環境の保全と活用を図る。 ＜その他の内容＞	実施した具体的な内容 環境への配慮： ○①想定どおり ○②想定どおりでなかった ＜想定どおりでなかった原因＞	○ 要 ○ 不要
効率性 (1)目標設定は適切か？	現況値(a)(%)：50 目標値(b)(%)：100 目標値の妥当性のチェック： ■①客観的なデータ・事実に基づき設定している □②現況値と比べ実現性が乏しい値ではない □③現況値との差が小さい値ではない □④適当な比較対象が有る場合、比較対象例における目標値(と現況値の差)と同等の水準である	達成状況：実績値(f)(%)： 達成率(%)(f/b×100)： ○①目標値達成 ○②目標値未達成 ＜目標を達成した理由／未達成となった原因＞	○要 ○不要
効率性 (2)事業費削減の工夫をしているか？	対策実施による事業費削減： 事業費(c)(千円)：749 事業費削減額(d)(千円)：△80 事業費削減率(%)：△11.96 実施予定の対策： □①国・県助成制度活用 □②現有体制での対応 □③維持管理費の削減策の実施 □④民間委託 □⑤ＰＦＩ等民間資本の活用 □⑥受益者負担 □⑦その他 ＜削減の内容＞	実施状況：実績値(g)(千円)： 対事業費(%)(g/c)×100： ○①想定事業費未満 ○②概ね想定事業費以内 ○③想定事業費超過 ＜超過理由等＞ 事業費の削減対策について： ○①事前の想定どおり ○②事前の想定どおりでなかった ＜想定どおり削減できなかった原因＞	○要 ○不要
効率性 (3)目標値を実現する為に投じる事業費は適正か？(目標対費用)	目標値対事業費(e)：13.35 単位：% 費用単位：10万円 計算方法： ●①単年度の指標：目標値×費用単位／事業費 ○②複数年度の指標：(目標値－現況値)×費用単位／事業費	達成状況：実績値(h)： 対目標値(%)(h/e)×100： ○①目標値以上 ○②目標値と同程度 ○③目標値以下 ＜目標値以上となった理由／目標値以下であった原因＞	○要 ○不要

３．事後評価

○現状どおり推進　○拡充　○縮小　○結合　○休止　○廃止　○事業手法見直し　○その他(事業完了など)

評価	評価コメント	改善策及び展開方向